

## 様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸女子短期大学
設置者名	学校法人行吉学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html</a>
財産目録	<a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html</a>
事業報告書	<a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/jigyō.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/jigyō.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html</a>

### 2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2019年度事業計画書 対象年度: 2019年度 )
公表方法:ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/mokuhyou.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/mokuhyou.html</a>
中長期計画(名称:中期目標、中期計画 対象年度:2019~2023年度 )
公表方法:ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/mokuhyou.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/mokuhyou.html</a>

### 3. 教育活動に係る情報

#### (1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/check.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/check.html</a>
--

#### (2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/effort/check/index.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/effort/check/index.html</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合生活学科
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html</a> )
(概要) 総合生活学科は、衣・食・住を含む生活空間、及び情報・ビジネス社会における諸現象や諸問題を教育研究の対象とし、生活に関わる種々の課題を自らの目線で能動的に捉え、本学科で学んだ講義・演習・実習等を通して、より高い次元で問題解決を図ろうとする意欲と実践力を身に付けた人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html</a> )
(概要) 総合生活学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（総合生活学）の学位を授与する。 【知識・技能】 ・生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 ・選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 【思考力・判断力・表現力等の能力】 ・客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 ・現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 ・社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 ・持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 【主体性・多様性・協働性】 ・実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力を有している。 ・多様なものの見方や考え方を尊重し、人々と協働して学修を進める力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html</a> )
(概要) 総合生活学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。 【教育課程の編成】 ・学科基礎科目の必修科目として「総合生活論」「基礎ゼミ」「総合生活演習」、選択科目として「被服学」「調理学」「住居学」「情報社会論」「社会福祉概論」「家庭経営」「健康管理概論」「環境保全論」「消費生活論」「家族関係」「保育学」「被服構成基礎実習」「調理基礎実習」「住居デザイン基礎実習」「情報基礎演習」の生活全般に関わる基礎知識・基礎技術の習得を中心とする専門科目を用意している。 ・学科の選択科目は 10 科目群で編成し、「基礎デザイン」「ビューティーデザイン」「服飾デザイン」「住居デザイン」「フードデザイン」「情報」「ビジネス」「心理」「コ

<p>コミュニケーション」「教員・公務員」を自らのキャリアプランに応じて科目を選択し総合的に学べるよう体系的なカリキュラムを編成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科目で身に付けた専門的知識・技能を基にして、応用力や実践力が身に付くよう、講義形式、演習形式、実験・実習形式など、科目の特性に応じた多様な方法で授業を行っている。</li> <li>・ 以下の資格や免許等が取得できる科目編成をしている。中学校教諭二種免許状(家庭)、二級建築士・木造建築士(受験資格)、フードスペシャリスト、フードコーディネーター、秘書士、プレゼンテーション実務士</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html</a> )</p>
<p>(概要) 総合生活学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みがある者として、次のような人物を求める。</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活全般にわたる基礎・基本の知識や技術の修得をめざし、多くの実践的な授業や資格取得に取り組める人。</li> <li>・ 高等学校の教育課程を修得し、基礎的な学力を身に付けている人。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力等の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会や生活の諸課題を総合的に解決していくために必要な思考力を積極的に身に付けようとする意欲のある人。</li> <li>・ 主体的に自らのキャリアプランを構築し、学びを通して、強い意志をもって自立、実現しようとする意欲のある人。</li> <li>・ コミュニケーション能力の獲得を通して、地域や社会と積極的にかかわる対話力を身に付けようとする意欲のある人。</li> <li>・ 将来の社会変化を見据え、現代社会の発展を積極的に生活に還元する創造性を身に付けようとする意欲のある人。</li> </ul> <p><b>【主体性・多様性・協働性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合生活学科のディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシーを理解して専門科目群の学修や資格の取得を自主的に進めてキャリアプランを描き、その実現に向かって努力したいと考えている人。</li> <li>・ 多様なものの見方や考え方を尊重し、社会で協働して活躍したいと考えている人。</li> <li>・ 社会生活において人々が協働することの大切さを理解し、他者とコミュニケーションがとれる心豊かな人。</li> <li>・ 「生活」をテーマに「創造」することの楽しさを体験し、豊かな社会を築きたいと考えている人。</li> </ul>

<p>学部等名 食物栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html</a>)</p>
<p>(概要)  食物栄養学科は、「人間性豊かな食と健康のクリエイション」をスローガンに、時代が求める「食」のスペシャリストの育成を目指す。そのため、食と健康に関わる諸問題について系統的な研究と教育を行い、健康な生活を送るために必要とされる幅広い知識と深い専門性を有する、社会にとって有為な自立した女性の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  食物栄養学科は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（食物栄養学）を授与する。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品に関する専門知識を身に付けている。</li> <li>・ 栄養と健康に関する専門知識を身に付けている。</li> <li>・ 食育の実践に必要な知識・技能を身に付けている。</li> <li>・ 健康管理を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。</li> <li>・ 食品の開発や管理を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。</li> <li>・ 食と健康に関する研究を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなす能力を身に付けている。</li> <li>・ 食と健康に関する課題を解決する能力や判断力を身に付けている。</li> <li>・ 食に関する課題について、創造的思考力をもって解決できる能力を身に付けている。</li> <li>・ 専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることのできるプレゼンテーション能力を身に付けている。</li> </ul> <p>【主体性・多様性・協働性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人（栄養士）として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>・ 食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度を身に付けている。</li> <li>・ 食と健康に関して生涯にわたり学ぶ姿勢を身に付けている。</li> <li>・ 社会人（栄養士）として積極的に社会へ貢献する意欲や態度を身に付けている。</li> <li>・ 専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けている。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  食物栄養学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「専門基礎科目」・「専門科目Ⅰ」は「栄養士資格に関する科目」として卒業必修科目と栄養士資格取得に必要な科目に分けて配置している。実習や実験を多く取り入れることにより、栄養士として必要な、食品・栄養と健康に関する基礎的な知識や実践的な能力を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。</li> <li>・ 「専門科目Ⅱ」・「栄養に係る教育および教職に関する科目」は、食品に関する専門知識や、食品の管理や開発に関する専門知識を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。さらには教員免許である栄養教諭二種免許状が取得できるカリ</li> </ul>

<p>キュラムを編成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「専門科目Ⅲ」では、基礎知識を補う専門科目に加えて応用科目を開講し、社会人（栄養士）として、社会のニーズに対応した専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。</li> <li>・ 教育課程を通して、講義・実験・実習・演習を組み合わせた授業を展開し、学生の理解を深めている。</li> <li>・ 授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法はシラバスに記載し学生と共有している。</li> <li>・ カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを作成し、オリエンテーション時に説明をすることによってカリキュラム・ポリシーを可視化し学生と共有している。</li> </ul>
---

<p>入学者の受入れに関する方針        (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html</a>)</p>
--

<p>(概要)        食物栄養学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みがある者として、以下に記した能力や意欲を有した人物を求める。</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語（現代文）・数学Ⅰ、英語等を学び、基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>・ 化学基礎や生物基礎等を学び、栄養学を学ぶために必要な基本的な計算ができる。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力等の能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなすために必要な思考力を身に付けようとする意欲を持っている。</li> <li>・ 食と健康に関する課題を解決する能力や判断力を身に付けようとする意欲を持っている。</li> <li>・ 食に関する課題について、創造的思考力をもって解決できる能力を身に付けようとする意欲を持っている。</li> <li>・ 専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることのできるプレゼンテーション能力を身に付けようとする意欲を持っている。</li> </ul> <p><b>【主体性・多様性・協働性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養士としての目的意識が高く、何事にもチャレンジして実社会の即戦力として活躍したいという意欲を持っている。</li> <li>・ 「食」のスペシャリストとして幅広い知識や教養、技術を身に付けたいという意欲を持っている。</li> <li>・ 「食」の研究に関心を持ち、これからの食生活と健康のあり方について学びたいという意欲を持っている。</li> <li>・ 学校内外での活動に積極的に取り組み、周囲と協働し主体的に活動することができる。</li> </ul>
---

学部等名 幼児教育学科
<p>教育研究上の目的  (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html</a>)</p>
<p>(概要)  幼児教育学科は、人間の成長や発達について、また保育・教育の方法についての専門性を深めるための教育研究を行い、子どもへの愛情にあふれ、職場の人々や子どもの保護者さらに地域社会と豊かに交わるための高いコミュニケーション力を持った保育者として、社会に貢献できる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  幼児教育学科は、人間の成長や発達についての専門的理解を踏まえた保育実践力を身に付け、子どもへの愛情にあふれた保育者としての高い資質を備え、社会にとって自立した有為な女性を育成することを目的とする。そのため、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」が、次の基準に達しており、卒業単位を修得したものに短期大学士（幼児教育学）を授与する。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。</li> </ul> <p>【主体性・多様性・協働性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</li> <li>・ 多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：ホームページへの掲載  <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html</a>)</p>
<p>(概要)  幼児教育学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育学科では、全学共通の教養科目に加えて、資質の高い幼稚園教諭と保育士を育成するために、以下のような専門科目によって教育課程を編成する。</li> <li>・ 幼稚園教諭・保育士にふさわしい能力を育てるために、専門的な方法論と知識を体系的に学ぶことを目的に、専門科目、幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目を設置する。</li> <li>・ 知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる一般的な能力を育成するために、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。</li> <li>・ 高い倫理性に裏付けされた保育者としての実践力を育てるために、教養科目及び専門科目の充実を図り、ていねいな個別指導を実施する。</li> </ul>

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページへの掲載)

<http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html>)

(概要)

幼児教育学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みのある者として、次のような人物を求める。

【知識・技能】

- ・ 高等学校の教育課程を幅広く修得し基礎学力を備えている。
- ・ 入学前教育として求められる課題に取り組むことができる。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 自分の思いや考えを適切にまとめて他者に伝える力を育むことができる。
- ・ 判断力、創造力、表現力を身に付けたいと考えている。

【主体性・多様性・協働性】

- ・ 明るく礼儀正しく多様性を大切にする柔軟な心を身に付けている。
- ・ 他者と主体的に協働して活動することができる。
- ・ 子どもを愛し、次世代を育てる保育者を目指す高い意欲がある。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページへの掲載

<http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/about/chart.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
総合生活学科	—	6人	3人	1人	0人	3人	13人
食物栄養学科	—	5人	2人	2人	1人	3人	13人
幼児教育学科	—	6人	4人	0人	0人	2人	12人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
1人			97人				98人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページへの掲載 <a href="https://achieve.yg.kobe-wu.ac.jp/kwuhp/KgApp?section=500000">https://achieve.yg.kobe-wu.ac.jp/kwuhp/KgApp?section=500000</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合生活学科	120人	98人	81.7%	240人	193人	80.4%	0人	0人
食物栄養学科	120人	89人	74.2%	240人	186人	77.5%	0人	0人
幼児教育学科	100人	80人	80.0%	200人	159人	79.5%	0人	0人
合計	340人	267人	78.5%	680人	538人	79.1%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合生活学科	81人 (100%)	3人 (3.7%)	72人 (88.9%)	6人 (7.4%)
食物栄養学科	89人 (100%)	11人 (12.4%)	69人 (77.5%)	9人 (10.1%)
幼児教育学科	92人 (100%)	3人 (3.3%)	89人 (96.7%)	0人 (0%)
合計	262人 (100%)	17人 (6.5%)	230人 (87.8%)	15人 (5.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				



(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合生活学科	87人 (100%)	81人 (93.1%)	2人 (2.3%)	4人 (4.6%)	0人 (0%)
食物栄養学科	93人 (100%)	89人 (95.7%)	0人 (0%)	4人 (4.3%)	0人 (0%)
幼児教育学科	94人 (100%)	90人 (95.7%)	0人 (0%)	4人 (4.3%)	0人 (0%)
合計	274人 (100%)	260人 (94.9%)	2人 (0.7%)	12人 (4.4%)	0人 (0%)

(備考)

#### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"><li>授業計画書の作成過程及び時期 11月 「シラバス作成マニュアル」、「シラバスガイドライン」の配付及びホームページにて公表 12月 授業担当者によるシラバス作成 12月～翌1月 シラバス点検委員によるシラバス記載内容点検 1月 授業担当者によるシラバス記載内容修正 3月下旬 シラバス公表</li><li>講義計画書（シラバス）に、各科目の「授業の目的」、「授業全体の内容の概要」、「授業の達成課題（到達目標）」、「受講生の自主学習（授業前後）」、「評価方法」、「オフィスアワー（質問等の受付方法）」、「授業計画」等を記載している。</li></ul>

#### ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"><li>授業科目を履修し、シラバス等によりあらかじめ示された試験に合格した場合は、その授業科目の単位を認定する。</li><li>授業科目によっては、試験は、実技あるいは課題（レポート）提出等に代えて行われる場合があります。課題（レポート）については、担当教員の指示のもと、指定された期限内に提出したときに限り受理する。</li><li>次のいずれかに該当する場合は、試験（単位認定）を受けることができない。<ul style="list-style-type: none"><li>①授業科目の履修登録をしていない場合</li><li>②原則として、各期それぞれの出席が授業回数<math>\times</math>3分の2に満たない場合。</li><li>③授業料その他の学納金が未納の場合</li></ul></li></ul>

《学修成果の評価方法》

**総合生活学科**

- ・ 講義科目は、筆記試験、レポート試験、授業での学修活動、受講態度等を授業担当教員がシラバスに示した評価基準、評価方法に基づいて評価する。
- ・ 実験・実習・演習科目は、レポート、作品、筆記試験、プレゼンテーション、授業での学修活動、受講態度等を授業担当教員がシラバスに示した評価基準、評価方法に基づいて評価する。
- ・ 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について、各科目の授業目的に応じた評価基準に基づいて評価する。

**食物栄養学科**

- ・ 成績評価は各教科のシラバスに示された評価方法により、厳正に行い、学期毎、および累計のGPAを算出し、総合成績評価を行う。

**幼児教育学科**

- ・ 講義科目および演習科目は、試験、発表、レポートなどにより総合的に評価する。試験では授業内容の理解と学修到達度や、発表・レポートでは発表内容と成果物の充実度により評価する。
- ・ 保育職に向けての総仕上げである「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、学びの履歴を蓄積した履修カルテ等で自身の振り返りを重視した評価をする。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	総合生活学科	62 単位	有	50 単位 (年間)
	食物栄養学科	62 単位	有	50 単位 (年間)
	幼児教育学科	62 単位	有	50 単位 (年間)
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/result.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/result.html</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページへの掲載 <a href="http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/result.html">http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/result.html</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページへの記載  
<http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/campuslife/campus/pi.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

【入学年次】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	総合生活学科	850,000円	250,000円	260,000円	その他-教育・施設充実費
	食物栄養学科	850,000円	250,000円	280,000円	その他-教育・施設充実費
	幼児教育学科	850,000円	250,000円	220,000円	その他-教育・施設充実費

【2年次】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	総合生活学科	850,000円	0円	270,000円	その他-教育・施設充実費
	食物栄養学科	850,000円	0円	300,000円	その他-教育・施設充実費
	幼児教育学科	850,000円	0円	250,000円	その他-教育・施設充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
<p>全ての学生が入学から卒業まで心身ともに健康かつ安全な学生生活を過ごせるよう、教職員が一丸となってきめ細やかなサポートを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対する指導においては、常に基本的人権に配慮した対応を行う。そのため、教職員一人ひとりが自己研鑽に励むとともに、大学としても定期的な人権研修を実施する。</li> <li>2. 本学の伝統あるクラス担任・副担任制度を活かして、親密で家庭的な人間関係に裏打ちされたサポートを行う。このためクラス担任・副担任は、学生課・教務課・キャリアサポートセンター・教職支援センター・保健室などの大学諸部門との連携はもとより、必要に応じて保護者とも連絡を取りつつ、個々の学生生活に応じた支援を行う。</li> <li>3. 学生の自治組織である学友会と学長及び学生部担当教員・事務担当が直接に意見交換をする会合を定期的に持つことにより、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルに従った学生生活を支援する大学環境の改善を行う。</li> </ol>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要)
<p>学生一人ひとりが社会構造の変化に対応し幸せに生きるための確かな人生観と職業観を持ち、地域社会や産業界が求める専門的資質を備えた高い就業力を身に付けることができるよう、教職員が一丸となってきめ細やかなサポートを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3 学科の専門家を育成する専門教育だけでなく、社会人基礎力、豊かな人間性、女性としての品格を備えた教養人を育成するための教養教育を実施する。</li> <li>2. 本学の伝統あるクラス担任・副担任制度を活かして、親密で対話的な人間関係の中で、個々の学生の希望やニーズに応じた就職・進学をサポートを行う。</li> <li>3. キャリアサポートセンター・教職支援センターとクラス担任・ゼミ担当教員など学科教員との連携を密にして、就職・進学の情報提供を積極的に行うとともに、就職ガイダンスやエントリーシートの書き方、また大学への編入試験説明会の実施など、入学から卒業までを見通した計画的な就職・進学の支援を行う。</li> </ol>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

**学生相談室**

神戸女子短期大学では、学生相談室を設けており、以下のような事柄について、臨床心理士が話を聞き相談にのっている。

- ・精神的なことについて（対人関係、自分の性格など）
- ・学業について
- ・将来について
- ・生活について など

その他、「入学してみたものの、学校になじめないような気がする」「家族のことで悩んでいる」「ひとり暮らしがうまくいかない」「男女交際に関する悩みがある」「経済的なことで悩んでいる」「トラブルに巻き込まれている」など気になることがあればなんでも相談を受ける。（秘密厳守）

**保健室**

保健室は学生および教職員の健康を保持し増進させていくことを目的とし、応急処置をはじめ健康診断や健康相談の実施し、必要に応じて医療機関の紹介などを行っている。

また、健康管理のためのウエイトコントロールや、血圧測定、検尿、食生活相談なども行っており、学生が自分の健康を考える場として気軽に利用することができる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページへの記載

<http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/index.html>